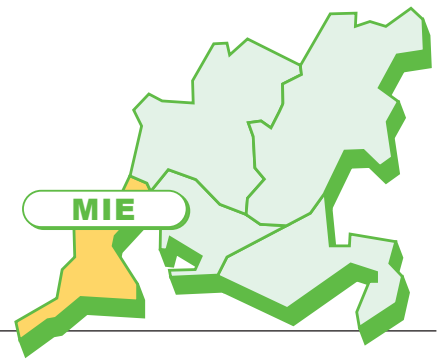


中部 だより

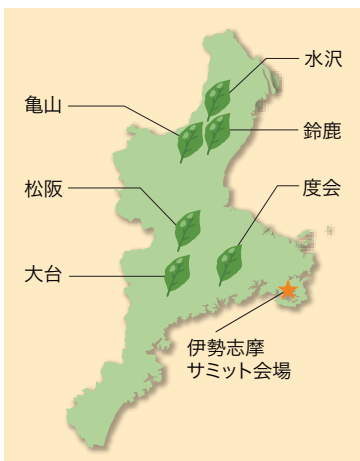
中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。



伊勢茶の新たなブランド・マーケティング～ナショナルブランドを目指して～

伊勢茶のいま

伊勢茶とは、三重県で生産されるお茶の総称で、三重県産100%の緑茶のことである。栽培面積は3,040ha、荒茶生産量は6,830tで、静岡県、鹿児島県に次いで、共に全国3位である(平成27年度)。伊勢



茶は南北に長い産地特性を活かし、古くから北勢地域で主にかぶせ茶※1(かぶせ茶を含むおおい茶の全国シェア約27%、第1位)、中南勢地域で普通煎茶、深蒸し煎茶が生産され、これまでも関西茶品評会等で農林水産大臣賞を受賞するなど評価が高い。しかし、他府県産の銘柄茶の原料用茶として出荷されることが多く、「伊勢茶」としての流通量が少ないことから、流通・消費段階においてブランド力を高めることが課題となっている。



の流通量が少ないことから、流通・消費段階においてブランド力を高めることが課題となっている。

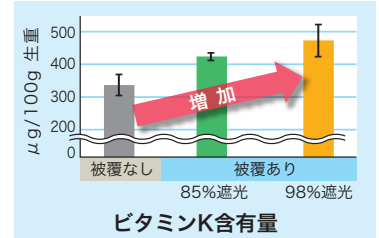
新たなブランド・マーケティング

三重県×三重茶農業協同組合の取り組み

産地レベルの導入は全国初となるICT※2を活用した「伊勢茶トレーサビリティシステム」の運用を、地方創生先行型交付金(上乘せ交付分)を活用し、今年3月から開始した。本システムは、茶農家がスマートフォンやタブレットから栽培履歴などを現場でも記録することができる他、管理項目がJGAP※3に準拠しており、JGAPの認証取得、安全・安心な茶葉の国内供給や輸出の促進が期待されている。

三重県農業研究所×三重大学の取り組み

医学的根拠のある骨粗鬆症対応商品「坑口コモ緑茶」とその



関連商品の開発を、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業により進めている。現在、骨の健康維持に効果が期待されるビタミンK含有量を増加させた茶葉の栽培技術の確立に取り組んでおり、予防食品によるライフイノベーションを目指している。

各産地の取り組み

30～40代を中心とした若手生産者グループによる勉強会や一般向けの見学会の運営など、栽培技術の向上や販路拡大に向けて積極的に取り組み、活力ある産地形成を支えている。

ナショナルブランドを目指して

伊勢志摩サミットを記念した伊勢茶を原料としたコラボ商品の発売、各国サミット関係者への茶葉の配布や試飲等のプロモーションにより、高品質な味わいが好評を博し、「伊勢茶(Ise-cha)」の知名度は、国内外で高まりつつある。今後は、さらにサミットのレガシーと新たなブランド・マーケティングを融合させ、全国レベルで認知されるナショナルブランドとして成長していくことが期待される。

さらに、今年は「第70回全国お茶まつり三重大会」やイベントである伊勢茶の消費拡大に向けたPRイベントなどが県内各地で開催される。この機会に、日本茶の魅力とおもてなしに、ぜひ触れていただきたい。

(三重担当 平山りえ)

※1 かぶせ茶: 摘採前の一定期間を遮光栽培した茶
※2 ICT: 情報・通信に関する技術、産業、設備などの総称
※3 JGAP: 食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証で、農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法

取材協力: 三重県農林水産部農産園芸課、三重茶農業協同組合
画像提供: 三重県農林水産部農産園芸課